

～メディア、自立、環境～

毎号の表題の大学名～学科名は、
現代生活学科1年生の皆さんの筆によるものです。

産学教育連繫講座：Ladies Be Ambitious! ハッピーキャリア・ハッピーライフの描き方

株式会社パソナ 石田正則 取締役 蒲生智会 マネージャ

パソナは、今日の変動・多様化する社会において、人材のトータルソリューションを提供する、人材ビジネスのリーディングカンパニーです。近年では、農業分野の活性化・雇用創出を目指して、これから農業を担う新しい発想と知識を持った人材の育成を行う、パソナ農援隊をグループ企業に加えるなど、多様な領域の人材育成と雇用促進を行っています。さて、そのパソナグループで女性労働領域のリーダーである、蒲生さんによるワークショップがはじまりました。



「10年後の将来を描いてみよう!」

就職、結婚、退社、子ども。4つのライフイベントを何歳でしたいか、自分の将来を考えて紙に予定を書いてみます。そして次に、実際に予定した年齢でそれを迎えるには、その前にどんなことが起きるべきかを考えてみます。実際に予定通りに進みそうでしょうか？

大切な20代30代を充実させるためには、「働く現状を知る」、「やがて迎えるライフイベントに対応したキャリアを考える」ことが大切だと説かれます。

20代の意識については、学生時代から「仕事」「子育て」「両立」への、漠然としたネガティブイメージから仕事を諦める傾向にあることが分かってきました。



長期的なキャリアを自分の中で描くこと、長い目でみて自分の将来を考えることが必要なのです。

また一方、働く側でなく企業の側からみて、なぜ女性活用が必要なのかを考えて見ます。単に労働力不足だけでなく、女性の特質を生かした働き方やものの捉え方を通して、新しい商品やサービスが生まれたり、問題解決に結びつく事例が紹介されました。女性活用に積極的な企業が増えてきています。

続いて石田取締役から「大事なお金の話！」

若いときは今を生きることに精一杯と思われませんが、自分の人生の上でやがて訪れるライフイベント。自分の生涯を金の流れで予測してみる「生涯キャッシュフローシミュレーション」が紹介されました。



企業社会で人材を活かすというと、能力や収入のことだけが問われるように思われますが、パソナのお二人のお話からは、一人ひとりが自分の人生をどのように捉え、計画し、備えてゆくのか。働く側の人間をしっかり育ててゆくことが人材ビジネスの核にあるという姿勢が感じられました。



パソナの講演を聴講して 現代生活学科1年生の感想

講演を聴いて、現代生活学科の1年生が感想を記録しました。その一部を紹介します。

根本的にある原因を追求し、改善しないがせり日本の女性の活用は伸びるのに時間が"かかっちゃうの"ではいいのかと思いた。今は女性の活用は94%のメリットを産出する"と"か"まると思っています。

若者だけでなく、60歳以上の女性高齢者も取り入れてみるのも良いのでは"いいかと考える。女性高齢者も消費の鍵を握っている訳だから、もっと高齢者にも目を見向きすべきである。

会社の大小問わず、女性の雇用は難しいとは思いますが、全世界の女性が抱える問題であるので、きちんと対策していくべきだと考えます。

現代生活学科は、「環境」を理解し、「メディア」の技術と考え方を身につけ、「自立」した社会と暮らしづくりを構想し、実践するための教育を展開します。私たちとともに、女性ならではの視点で、新たな社会づくりを考えていきませんか？

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 News! 2014年第22号

編集・発行 実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 2014年12月31日発行

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 Tel. 042-585-8918 Fax. 042-585-8919

実践女子大学 <http://www.jissen.ac.jp/>

現代生活学科 <http://www.greenphronesis.org/>